

1 大山口列車空襲 慰霊の碑



※写真提供 山陰歴史館

基本情報

所 在：JR大山口駅前
 住 所：鳥取県西伯郡大山町国信544
 (JR大山口駅 徒歩1分)
 建 立 者：大山口列車空襲被災者の会
 建 立 年：平成4年7月28日
 連 絡 先：大山口列車空襲被災者の会 個人宅のため記載せず

碑 文

【表】
 大山口列車空襲
 慰霊の碑
 (故人名)

【裏】
 平成四年七月二十八日
 大山口列車空襲被災者の会建立

協賛
 大山町
 名和町
 中山町
 淀江町

由 来

由来記

昭和二十年(一九四五)七月二十八日、午前八時頃、大山口駅東方約六百メートルの上野地区切割りに避難した、鳥取始発出雲今市行第八〇九列車に、米軍艦載機三機が銃爆撃を加えた。死亡四十四名、負傷三十一名以上の犠牲者を出し、上野では全半焼三戸の火災も発生した。

列車は十一両編成、前二両は病客車で、呉海軍病院三朝分院を転送院する軍、工廠関係者と付添いの衛生兵、日赤救護看護婦が乗り他の一般客車は、番号演習に動員された国民義勇隊、勤労動員学徒、軍需工場徴用者、一般乗客等で超満員であった。米軍機の機銃弾とロケット弾による攻撃は、前四両に集中、死傷者の折り重なる惨状を呈した。

敗戦直前、乗客は本土決戦体制下にあったが非戦闘員であり、更に病客車には大きく赤十字マークが書かれていたにもかかわらず、米軍機は執拗に攻撃を繰り返し、静かな田園は一瞬にして惨劇の場と化した。その日を境として、遺族被災者の苦難の日々が永く続くことになった。

平成三年四十七周忌の合同慰霊祭を機に、大山口列車空襲被災者の会がつくられ、その呼びかけに応えた県内外の遺族被災者等一千有余の人々の協賛、関係町等の支援によってこの碑は建てられた。

愛する肉親を失った遺族の悲しみは消えず死者は無念の思いを語る事ができない再びかかる悲惨を繰り返してはならない誓いと鎮魂の祈りをこめてこの碑を建立する。

平成四年七月二十八日
 大山口列車空襲被災者の会

2 慰霊と平和祈念の集い



※写真提供 大山口列車空襲被災者の会

開催概要 (平成26年度)

歳 事 名：慰霊と平和祈念の集い
 会 場：大山公民館
 住 所：鳥取県西伯郡大山町末長269-1
 (JR大山口駅 徒歩3分)
 日 時：平成26年7月28日(月) ※例年7月28日開催
 参 列 者 数：約100人
 連 絡 先：大山口列車空襲被災者の会 個人宅のため記載せず

式 次 第 (平成26年度)

1. 開 会 の こ と ば
2. 黙 禱
3. 会 長 あいさつ…大山口列車空襲被災者の会会長
4. 来 賓 あいさつ…大山町長、大山町教育長
5. ご遺族あいさつ…遺族代表
6. 平 和 へ の 祈 り…学童(大山西・大山・名和・中山)
7. 祈 禱・焼 香…神宮寺住職
8. 閉 会 の こ と ば

会長あいさつ (平成26年度)

こんにちは。今日も暑い日になりました。あれから六十九年になり皆様にご参加いただき誠にありがとうございます。皆様のご協力により慰霊と平和祈念の集いを継承出来ますこと、感謝申し上げます。あの惨劇の日から六十九年が経過したにもかかわらず、当事者の私たちに描きましては昨日の様な感覚しかありません。当時十歳の私でしたが、いまだにあの日の事柄が日々の生活の中でもふとしたときに浮かんできます。いまだに口にする事も忌まわしく、悲しく言葉にできません。飛行機の爆音を聞きますとあの光景を思い胸が締め付けられるようになります。のちに祖母から聞いた話ですが大山の方から真っ黒に連なった飛行機が迫ってきて、そのうち6機が大山口の列車を襲ったと聞きました。今日の私たちの幸せは、前世代の方々の並々ならぬ苦勞のうえに成り立っています。二度とこのような悲惨な出来事を繰り返さないよう、戦争の愚かさ悲慘さを次世代に語り継いでいくことが私どもの使命であることを自覚し、御魂の安らからんことをお祈りいたしまして、ご挨拶とさせていただきます。合掌

大山口列車空襲被災者の会 代表 山林 紀代美